

近現代史(50)「ナチス=ドイツ/スターリン体制/三国枢軸の結成」

○今回のポイント

世界恐慌を契機にドイツではヒトラーが政権掌握。ソ連ではスターリンの個人崇拜が強まった。スペイン内乱を経てベルリン=ローマ枢軸が形成され、日本を加えて三国枢軸となった。

【ナチス=ドイツとヴェルサイユ体制の破壊】

(1)世界恐慌とナチ党の進出

- 1930 ヴァイマル共和国建国以来の社会民主党が[1. 失業保険問題]で倒れる ⇒ナチ党と共産党の伸長
☆ナチ党[2. 国民社会主義ドイツ労働者党]の特徴
○ユダヤ人排斥を主張する人種差別主義、ヴェルサイユ条約破棄、民族共同体建設による国民生活の安定
○中産階級の支持獲得；世界恐慌によって失業者が増え、社会不安が広がり議会政治が混乱すると、ナチ党の[3. 大衆宣伝]に動かされるようになる。
○支配階級の支持獲得；[4. 共産党]の進出とヴァイマル政民主政治への見限りにより、産業界・軍部・
ユンカーがナチ党へ接近。
▼
■[5. 1933]年1月 ヒトラー内閣成立

(2)ヒトラーの内政

- ①ドイツ共産党の解散…1933年2月27日夜に発生した[6. 国会議事堂放火事件]を口実に弾圧。
②[7. 全権委任法]…1933年3月。民族と国家の困難を除去することを理由に政府に立法権を委ねる法案。ヒトラーの独裁体制を合法的に確立した。
- ③社会統制
・基本的人権、市民的自由は無視され、教育や文化を含む社会のあらゆる領域が厳しく統制。
・反対派の弾圧…秘密警察[8. ゲシュタポ]、突撃隊(SA)、親衛隊(SS)が弾圧、社会監視。
⇒ドイツ文学者[9. トーマス=マン](『魔の山』)、物理学者アインシュタインらの亡命
- ④[10. 総統]…1934年大統領[11. ヒンデンブルク]の死亡により、ヒトラーが大統領・首相・党首の全権を持つ独裁的地位を確立し、総統に就任する。
- ⑤経済政策
・恐慌対策、失業者削減に取り組む
・[12. アウトバーン]の建設などの公共事業の推進、軍拡、労働奉仕組織への失業青少年の吸収
・[13. アウタルキー]を目指す「四カ年計画」
⇒輸入に依存する天然のゴム、石油、繊維をドイツで産出量が多い石炭などを利用した合成ゴム、合成石油、合成繊維などで代用しようとする計画。
・**37年にはドイツでは失業者がほぼ一掃**された。他国が恐慌から脱しえない中、ドイツがいち早く景気回復に成功したことは、国際社会におけるナチスの評価を高めた。
- ⑥社会政策
・国民の[14. 娯楽]に配慮…余暇組織の設立、ラジオの普及など
・[15. 福祉政策]…貧困層への救済事業、結婚式の貸付制度など
・ナショナリズムの昂揚…1936年[16. ベルリン=オリンピック]の開催によって国民の自尊心を高める。

(3)ヒトラーの外政

■1933年

↓
・ [17. 国際連盟] 脱退…軍備平等権が認められていないとして脱退。

■1935年

- ↓
- ・ 1月 [18. ザール] 併合…有力な炭鉱地帯。住民投票により支持率 91% でドイツに復帰。ナチス政権による最初の領土拡大の成功。
 - ・ 3月 徴兵制復活と再軍備宣言…ヒトラーが [19. ヴェルサイユ条約] を破棄し、義務兵役制の復活、国防軍拡大を宣言⇒4月英仏伊が [20. ストレーザ戦線] を形成してドイツ再軍備に反対！
 - ・ 6月 [21. 英独海軍協定] …ドイツにイギリスの 35% の海軍力保有をドイツに認め、事実上再軍備を迫認。イギリス自身がヴェルサイユ条約を無視した！⇒ストレーザ戦線崩壊！フランスは 1935年 5月に調印していた仏ソ相互援助条約を翌 36年 2月 27日に批准。

↓
■1936年 3月 [22. ロカルノ条約] 破棄⇒仏ソ相互援助条約を理由に [23. ラインラント進駐]

【ソ連の五カ年計画とスターリン体制】

(1)スターリンの内政

① [24. 計画経済] …ソ連は資本主義世界と交流が少なく世界恐慌の影響を受けずに社会主義の基礎構築

②スターリン体制

- ・ [25. スターリン個人崇拜] …古くからの指導者、反対派に根拠のない罪状をきせ、大量に投獄、処刑。独裁的権力を強める。
- ・ [26. 第二次五カ年計画] (1933～)…第一次五カ年計画では餓死者がでたことから消費財生産へ配慮。だが国際情勢が緊迫し、結局は重工業・軍需工業に重点が置かれた。スターリン独裁の確立期と重なる。
- ・ [27. スターリン憲法] (1936)…平等、飢えからの解放、社会主義の実現をうたい、民主的な諸規定が整えられたが、実際には市民的権利が保障されず、民主主義からは程遠かった。

(2)スターリンの外政 国際社会への参加を進める。

- ・ 1934年 [28. 国際連盟] に加盟
- ・ 1935年 コミンテルンが反ファシズム [29. 人民戦線] 結成を唱える。
・人民戦線…ファシズムに対抗する為、共産党を含む左翼勢力が連合すること。

【ファシズム諸国の攻勢と枢軸の形成】

(1)イタリア情勢

① [30. エチオピア侵攻] (1935)…経済基盤が脆弱なため恐慌により行き詰り、ドイツ再軍備に対する 35年 4月のストレーザ線も崩壊したので、エチオピア侵攻。国際連盟は経済制裁を実行したが効果はなく威信は損なわれた。

② [31. ベルリン=ローマ枢軸] (1936)…ラインラント進駐・エチオピア侵略・スペイン内乱で国際的に孤立した両国の利害が共通して結合した。

(2)スペイン内乱

① 1931年王政崩壊⇒ [32. スペイン共和国] が成立するも政情不安定。

② 1936年スペイン内乱勃発… [33. アサーニャ] 人民戦線内閣の成立⇒フソ反乱軍の挙兵(保守派の支持)

[人民戦線内閣・ソ連・国際義勇軍(オウエル、ヒンゲウェイ) VS フランコ・ベルリン=ローマ枢軸]

※英仏は不干渉政策

③ 1939年 [34. フランコ] がマドリードを陥落させて勝利。

(3)三国枢軸の結成

・ 1936年 日独防共協定 ⇒ 1937 [35. 日独伊三国防共協定]

※37年、イタリアも国際連盟脱退 ⇒ ヴェルサイユ・ワシントン両体制に挑戦する [36. 三国枢軸] の結成！